

あなたの願い叶え隊

- 第36回 -

様
88歳

最高の味を求めて

入居当時は「膝が痛くてねえ…」という言葉が口癖で、お部屋で過ごされることが多かった様。しかし現在は体調も回復され、ホールで仲の良いご友人と賑やかに過ごされるお姿を、私たち職員も嬉しく見守っています。そんな様にお誕生月の外出について伺うと、「去年行ったお寿司屋さんに行ってみたい。できれば職員のYさん付き添いだと嬉しいです」と、素敵なりクエストをいただきました。

当日は12月とは思えないほどの穏やかで温かな屋下がりとなりました。車で少し揺られ、念願の栄寿司へ。一番頼りにしている職員にエスコートされ、様は安心した表情で、ゆっくりと店内へ進まれました。そこには、様のため特別にカウンター一席が用意されていました。懐かしそうに店内を見渡し、「去年もこの席で食べたですね。一年経つのは、本当に早かですねえ……」としみじみ語られる様。一年前の思い出を、昨日のこのように慈しまれている様子でした。

やがて運ばれてきたお寿司を前に、「わあ、綺麗な色ですね。美味しそう！」とパツと表情を輝かせた様。一貫ずつ幸せそうに味わっておられました。



一番頼りにしているあなたと一緒に・・・



美味しいお寿司を前に会話も弾みます



こぼれんばかりの特大的幸せ



澄んだ空のもと願いを込めて

美味しいお食事でお腹を満たした後は、これからの一年を健康に過ごせるよう、地域の神社へお参りに向かいました。境内へ一歩足を踏み入れると、冬の凛とした静寂の中に、どこか温かい日差しが差し込んでいました。様は周囲の木々や空を仰ぎ、お外の空気を胸いっぱい吸い込まれていました。

拝殿の前に到着すると、背筋をすっと伸ばし、車いすの上で頭を下げ、静かに手を合わせる様。かつての伏しがちだった日々を乗り越え、いま、自らの足ではなくとも信頼を置ける職員と共に外の世界を楽しみ、新しい一年を願う。静かに手を合わせる様の凛とした横顔は、見守る私たちの心まで温かく照らしてくれました。

「また来年も、ここに来んとすね…」

職員と会話を交わしながら、つばさへと戻られたその背中には、静かな幸福がにじんでいました。何にも代えがたい、尊い時間がそこには流れていました。

「人生はもっと輝ける」をスローガンに、職員全員で入居者様の笑顔を増やすべく取り組んでいます。つばさは、まだまだ勉強する面もたくさんありますが、今出来ることから一步ずつ進めています。

現在1室の空きがあります。お気軽にお問い合わせください。